

1年前吉田寮に入寮した当初は、吉田寮が嫌いでした。どこにも横たわる人間、たばこ、酒、マージャン、写真で見たアヘン窟を思い出させるぐらいの雰囲気です。いかに頭が良くて、やっと京大に入った成功談を口にしながら、ただの飯を探す一回生。いかにも、世俗で、貧乏くさいです。食物残渣が積もっているコンロ、汚い布団と漫画が随所に散乱している事務室。薄暗い廊下、堆積した荷物とごみ、吉田寮に入ったら、とても明るい気持ちにはなれません。消えない人と人との距離感。ほとんど学生全員が入る中国の学生寮の暖かさがありません。青空の下、陽光を反射する瓦葺きの食堂がきれいでした。大きなXを付けられた京都帝国主義大学の落書きや、文化部室にかかるチェ・ゲバラの写真は、面白かったですが、現実はまだ飯探しという世俗さです。吉田寮に入る感じを率直に言うと、学生寮ではなく、スラムです。もちろん、僕もこのスラムのせいで、まだ生きているやつらの一員です。毎日白菜とそばをお湯で煮て、楽しく食べている僕は、まさに貧乏くさいやつの良いお手本です。

スラムですから、中に住むのはまともな人間でないと思われるのは至極当然のことです。吉田寮の取り壊しに対する反対も、既得利益者が、何かの理屈を立てながら、既得利益を必死に維持しようのと似たものでしょう。釜が崎などに入ったら、違った世界に入る新鮮さで、おもしろいなあと感じるでしょう。吉田寮に観光とか見学とかで来た人も、似た気持ちで来るのでしょう。しかし、入寮ということは、見学と違って、スラムで生活し、その環境に適応しなければならないことを意味します。スラムの自由自在さを楽しむやつもいるし、スラムの雰囲気が気に入らないやつもいます。

僕は、貧乏なくせに、後者の部類に入る最悪のやつです。しかし、この僕でさえも、汚いスラムに慣れてしまったのか、吉田寮の面白さを楽しむようになりました。

入寮して1ヶ月経ったあと、毎晩ゲームがされる旧印刷室から逃げ出し、C11に入りました。すると、僕もC14という誰でも自由に出入りできる、サロンみたいなところをよく訪れる人間になりました。毎日ねこにえさを与えにくる、もの知りですけど、ふらふらしているやつ、自転車で1年間ユーラシア大陸を放浪するなど、いつパタンと死んだと聞いてもおかしくないや

つ、そもそも人間本位がおかしいと主張する針灸の医者、ちょっとラーメンを食いに行くと言い、オートバイに乗り、時速 300 キロで奈良まで行く不良青年、日課として、夜中お酒を飲み、僕と一緒に「Deutschland über alles」を歌うアルコール中毒の博士、などなど、よくもこんなやつらが集まるもんだなあという感じです。

こんなやつらから想像できないぐらい面白い話をたくさん聞きました。製薬会社同士の「こんにやくのぶつかり」というぬるぬるの競争振り、マンガンを運ぶ鉄道が廃れて、交通不便になった愛媛の山村、40 年前、この京都で会津小鉄会と警察たちと拳銃で銃撃戦、最大の輸出品目が医者で、世界医療のフロンティアを開拓しているキューバ、高い医療費を払えない貧乏人がいくらでもいて、新薬の臨床実験が簡単にできるアメリカ、意外にも西洋文化に開放的なイラン。いろいろな視点から見た世界が伝わるし、誰が自分の考えを述べても、必ず他の考え方や価値観から、それは違うよという人がいます。

吉田寮というところでも、6 年前、中庭の人が鶏を養い、その鶏が毎朝早く啼き、どういっても聞いてくれないので、耐え難い寮生が交渉に行き、その晩、鶏を殺させて、飼い主が急いで食べたという荒々しいところでした。

10 年前、今サラリーマンになった寮生が、集団入寮した女団連のやつらの布団を窓の外に投げ捨てました。「ヤクザと黒いヘルメットに近づくな」という時代から、吉田寮は思想の自由を徹底的に保ってきました。今はもう緩んで、どう呼んでも構いませんが、10 年前は「さん付け禁止」というのがずっと厳しかったです。年下でも年上でも、寮生同士は「さん」をつけて、呼んではならないということです。執行委員でも一回生、二回生がやり、にこにこして、新入生（特に女の子？）と雑談をするずいぶん年上のやつがよく見られます。年をとったほうがいいと思う人もいるし、年上のほうが馬鹿と思う人もいますから、先輩後輩など、統一した価値判断は吉田寮に有り得ないんです。

在寮資格の確認や寮費の支払いなど、寮の存続のためになくってはならないことは、だれでもルールに従わなくてはなりません。2 ヶ月ぐらい前、僕は 40 代の寮生が、在寮資格確認の最終日に、東京から戻り、慌てて用紙が収められているところを一回生の女の子に教えてもらい、いろいろの担当の一回生たちに提出する狼狽振りを見ました。お茶の水博士のモデル、世界で始めて人工心臓に成功した渥美和彦に、彼が住んでいた北寮何号の札を記念として送ろうと思う寮生はいましたが、いくら偉い人でも、私物でない文化財の札

を送ってはならないとして、取り消しになりました。

今サラリーマンになった寮生が、筋膜炎になるぐらい、ゲームを連日やりました。同じ人が、執行委員として、だれもやりたくない、寮の公共の場の仕事をバンバンやりました。にこにこしながら敬語を使う上品な元寮生は、身長 185 センチ、不良が見ても恐れる人でした。

吉田寮というところは、相反するものが并存します。どんなに変わった人間でも、あるいはどんなに正常な人間でも吉田寮で見つけることができます。陰気なやつもいるし、明るいやつもいます。けちなやつもいるし、お金などを気にしないやつもいます。大事な吉田寮を残したいやつもいるし、吉田寮なんか取り壊してもいいんじゃないというやつもいます。1年間単位ゼロのやつもいるし、三人分の院生の仕事をして、週2回しかベッドにつかないやつもいます。炊事場の地面に何気なく水をこぼすやつもいるし、その対策に苦慮するやつもいます。酒に酔った後、公共の場を荒らすやつもいるし、見かねて後始末をするやつもいます。吉田寮がこうだと思ったら、必ずそれと反対するものが吉田寮のどこかに存在しています。ですから、だれでも吉田寮で好きな人間を見つけることができるし、また、かならず嫌いな人間とも一緒に生活します。「仏が阿弥陀を説く、阿弥陀が是に非ず、是が阿弥陀と謂う」のように、吉田寮でありながら、吉田寮ではないというものが、いわゆる吉田寮でしょう。突然思いついたけど、好き嫌いという考え自体がそもそもおかしいかもしれません、入寮 1 年足らず、さとるに程遠い僕ですから、好き嫌いの眼で世界を見たくとも、まあ、いいんでしょうね。

吉田寮に反対論がいくらでもある以上、何か主張すると、理屈を立てるのにいろいろ考えなくてはなりません。現在の日本は、誰でも今のままではだめだと知っているのに、保守と閉鎖に走りつつあります。成金の先進国であるせいかもしれませんが、どこでも上下関係を立てて、目は上にしか向けません。日本は先進国から学んだものを、誇り気に後進国に教える役でした。しかし、今はなにか日本独自のものを考え出さないと、この日本国が困るといふ時代になったかもしれません。どんなものに対しても、たくさんの「反」があるスラム吉田寮は、何かを思考するのに、格好の場所になるかもしれません。もちろん、日本国のことなんかどうでもいいと思うやつもいますが、ほら、やつが来た！

寮生活はすごいぜ！

とある一回生

6:00 今日の朝1:00から6:00までカラオケに行っていた。sぢ、んそkと熱唱、遊んで朝帰りするなんて、愉快だ。三条周辺のビル街と鴨川が明るくなり始める中、一緒に帰るのは会話はあまりなかったけれども楽しい。

12:00 起床。活動時間の三倍は寝ないと活動限界にすぐ達してしまう僕からすれば寝不足である。

お腹がすいたので近くのファミリーマートに行ってパンとジャンプを買って帰った。ハンター×ハンターは面白い、絶対面白い。毎週ハンター×ハンターを読む時が一週間のうち一番集中する、後ろで誰かが長電話していたがいっさい聞こえなかった、

もう春休みだからなにをしててもいい。いつものようにスマブラXをしよう、来年のスマブラ大会まで練習は怠れない。リンクはブーメラン、弓矢、爆弾の弾幕が基本、世の常識である。

14:00 映画をみる。普通のアパートに住んでいたら映画を見るならだいたい一人だろうが。寮で映画を見ると勝手に人が集まって、これが好きとか、俺がどうのこうのと、勝手に喋り出す。

横の人が自分にとっては意外な考えを持っていて、それを聞いて僕が驚くということが起こる。

この場のように、あの時はこうでなんなんだとか、難しい解釈の仕方とか、単に好き嫌いの話しか、面と向かって話していると人間一人で考えれる事が非常に制限されている事を実感する。制限があるというネガティブに取られるかもしれないが、それよりも完全に自分の外側に有った考えに触れる事が出来たことに感動するべきだ。寮はそういう事が起こり易い環境だ。

17:00 やる事があったけど、なにが面白そうな事をやっていていっしょにやろうと誘われた、いつもは断る事が多いが、今日は何か起こる気がする。においを嗅ぎ取った！きっと今日はその場の流れに乗るべき時なのだ、予想もつかない事が起こるだろう。すぐ横に誘い合える人間が居るとするのは恵まれている。自分がやろうとした事しかやろうとしないなんて、なんて面白くないんだ。

19:00 なぜかそわそわする。春になるとわそわする。春のお花見会では調子に乗り過ぎてしまった、という事をおもいだした。酔って吉田寮の守護妖精をリアカーでひいてしまい、サクラの枝をを棒でたたいて花を散らしまくり、タマネギが嫌いだからという理由でタマネギを勝手に捨て、女の子に向かって下ネタ、を言ったそうな。ゆるしてね

21:00 吉田寮の梁山泊、執行委員会。ここにいる知的な上回生達と日夜議論を交わせば、なんだか文化的な京大生になれた気がするだろう、

23:00 眠いから寝る！夢で見たのは初めて吉田寮を訪れた時の事。

吉田寮と言う表札は有るが、ここは門である、遠くの方に目をやると、見えるか見えないかくらいで建物が有る事が認識出来る。一体ここから何メートル有るのだろうか。意を決して入り口への長い通路を歩き始める、道の両脇には寮生の自家用車だろう、何台も駐車してある。さらに驚いた事に、通路の途中でクラシック音楽が弾かれている、曲名は分からない、彼らの技術によって聞いた事も無い音楽に変えられていたからだろう。歴史を感じさせる建物の入り口に着く、とそこに居た受付嬢に寮の案内役を捜してもらおうように頼んだ。彼女は明るく、親近感が持てた。放送で呼ばれてきたのは、なんと、熊を連れてくる男であった。熊はその男に完璧に服従していた。その男にしたがい寮内を見て回る。熊にも驚いたが、やはりこの男の方が気になった、落ち着いていてかつ陽気な話し方に私は吉田寮生とはこういう者なのかと安心感を覚えた。管理棟に居るとき、すぐ隣で「~万円負けた」という声がした、しかし彼は笑っている、彼に取っては大した負けではないのだろう。そうでなければイカしているとしたか言いようが無い。

寮生が数人で酒を飲みながら議論をしている、

「吉田寮はいろんな意見を持ったやつが居て、それを忌憚なく言い合えるってところが面白い、というかそこそが吉田寮を特徴づけるものだ。」「そうだ、吉田寮は思想を持っている。混沌とした状

態を保つという事、どういう方向にも転ぶ可能性を持ちつづけるということ！さまざまな思想を持つ人を受け入れるが、思想の強要などはナンセンスだという事。！！」「ここでいろんな人と話していたら疲れる事もあるけど、つねに問題が有ることには飽きない」酔っているからか私には、よくわからない。

猫が居る、顔つき、体躯。美しい動物だと思う。考えている事が単純そうに見える時もあり、複雑な事を考えているように見える時もある。

一通り回った後、食堂という所で音楽ライブをするという事で、誘われるままに行ってみた。食堂はにぎやかで、彼らは全員楽しそうだった。壁は古く、絵が描かれている。

音は一旦壁に入り込み、内部でいままで蓄積された思いや歴史が音に混ざり、はね返って耳に届く。そういうものも曲に混ざり、会場全体を酔わせているように感じられた。

## 寮の匂い

Kota

僕は寮に住んで6年目。今年が最後の寮生生活です。僕が見てきた寮の事をいっぱい聞いて欲しい。でも全て知ってもらうには、とてもたくさんしたい話があって、困ります。今回は匂いについて書きたいと思います。

匂いって昔の気分や情景を思い出したりしませんか？

僕は新築の匂いを嗅ぐと、小学校の時の塾を思い出します。

雨に濡れ始めたアスファルトの匂いを嗅ぐと、中学生の時の家の前の道を思い出します。

土の匂いを嗅ぐと、雑木林に昔作った秘密基地を思い出します。

ハーバルエッセンスというシャンプーの匂いを嗅ぐと、留学していた高校時代を思い出します。

始めて吉田寮を訪れると、寮の匂いが印象に残るでしょう。

かび臭いような、埃っぽいような、木の匂いです。

100年もの間、毎年住んでいる人の手によって磨かれてきたこの木が、梅雨に入ると梅雨の匂いを出します。

夏には蚊取り線香の、夜には中華料理の、あの部屋の前ではガラムというタバコの、冬にはコタツの木の乾いた匂い、春になる頃には中庭中に咲く水仙の、寮祭の時期には構内から沈丁花の匂いがします。相部屋の人が変わるたび、部屋は違う匂いになります。

いつも嗅いでる匂いはすぐに慣れ、気づかなくなります。でもそれは記憶の奥底にずっと刻まれていて、はっと思い出す時、寂しいような、懐かしいような、嬉しいような不思議な気分になります。

一ヶ月、二ヶ月の海外旅行から帰ってきた時、そして2週間の入院から帰ってきたとき、この寮の匂いに本当にほっとしました。涙が出そうになりました。

吉田寮は

とてもきれいでとてもきたない

とても楽しくてとてもつまらない

とても落ち着いてとても居づらい

とても奇異でとても普通

とても好きでとても嫌い

とても複雑でとても単純

こんな場所です。

でも全てひっくるめて

**いの白いだよ、吉田寮。一度遊びにおい**

で!



## 吉田寮入寮案内

よしだりゅう

私は吉田寮に入ってよかったと思う。京大を目指したのは吉田寮のため。京大に通えたのは吉田寮のおかげ。浪人・留年・休学したのはちょっとだけ吉田寮のせい。大好きな人たちと巡り逢えたのは吉田寮のおかげ。ついでに一部の人に嫌われてしまったのも吉田寮のせい・・・のはず。そして現在私は理学部在学6年目で休学中。2010年4月からは復学予定である。この文章ではそんな私の、吉田寮での思い出を少しだけ語ってみようと思う。

私が初めて吉田寮を訪れたのは2002年の冬。床に転がるゴミと寮生と猫、腐った廊下、割れた窓、山積みの漫画やゲーム、夜を徹して続く楽器の音・・・そしてなによりも濃密な人間関係。当時の私は今よりもさらに未熟で、これら吉田寮の魅力にあつというまに感化されてしまった。それから私は吉田寮を受験の宿として利用し京大を受け続け(吉田寮は一泊200円で外部の人間も大部屋に宿泊できる。)、2004年に合格、入寮を果たした。

一年目。全く勉強せず、単位もろくに取らず、好きなことをして過ごす。試験を受けて白紙で出したら単位が出たりしたため、意外にも0単位ではなかった。

二年目。成績不振のため授業料免除が不許可になり、アルバイトをかなり増やす。奨学金は、きちんと返す自信が無いので借りなかった。幸い手頃なアルバイトに就くことができ、それほど苦勞せずに必要なお金を得ることができた。しかしこの頃から、「成績不振による授業料免除不許可→アルバイトを増やして単位取れず→繰り返す」という悪循環に陥る。

三年目。家庭の事情で経済状態が悪化。毎月約20万円をアルバイトで稼いでいたため、日々の生活がしんどいと思い始める。あいかわらず勉強はしなかった。

四年目。家庭の事情から解放される。卒業の危機を感じ始めたため、比較的単位の取りやすい実験、実習、集中講義で単位をかき集め、残すは卒業研究だけというところまでこぎつける。単位を取ることに集中したため、全くといっていいほど勉強できなかった。

五年目(休学)。将来暖かい地域に住みたいのでちょっと様子を見てみようと思い、東南アジアの国々10ヶ国を放浪する。行く先々で人々にはやさしくしてもらい、食べ物をもらったり家に泊めてもらったりして、孤独を感じる事があまり無かった。腹も全くこわさず、初の海外旅行なのにひどく拍子抜けだった。どこの国も気候は申し分なし。ただ、都市部は排気ガスによる汚染がひどかった。これらの国々は数十年前の日本と同じ道を辿っているのだろうと思った。

六年目(休学)。今度は沖縄に住み込んで、大型トラックの運転手やさとうきびの刈り取りのアルバイトをやった。仕事はきつく賃金は低かったが、ここでも人々と熱い交流ができ、とても面白かった。有人の島としては日本最南端の波照間島というところにいたのだが、意外にも冬は寒かった。京都と比べると確かに暖かいのだが、寒いと感じてしまうものは仕方がない。なお、このとき日本最南端の便所の建設に参加できたことは私の生涯の誇りとなるだろう。

そして現在六年目の終わりが近づき、七年目は復学するつもりでその準備をしている。二年も休学していろいろなところに行ってみたが、どこに住んでもたいした違いは無いと感じ、それならば卒業後は故郷に帰ろうという結論に達した。



吉田寮のパフレットなのに、ついつい自分のことばかり書いてしまったが、私が言いたかったのは「吉田寮に入るといろいろな人に出会えて、自分の価値観に多様性が生まれる機会に恵まれるよ。」ということだ。私は将来どこに向かうのかを決めるのにずいぶんと回り道をした気もするが、決してそれは無駄ではなかったと思っている。もしこの欲張った作業を今のうちにやっておかなかつたら、数年先、数十年先に必ず「もしあのときあの破天荒な道を選んでいたら自分はどうなっていたであろうか？」という考えが私の心を乱すに違いない。どこに住もうが楽しみや苦しみは同じように存在するのであり、結局は周りの環境をどのように受け止めるのかというその人自身の能力が、その人の楽しみ具合、苦しみ具合を決定する一番の要因となることを直接の経験から学んだのは大きな収穫だったと思う。

さて、吉田寮のこれからについて少し述べておこう。吉田寮は築97年目。2010年春の新入寮生が在学4年目の年に100周年を迎える。だが無事に100周年を迎えられるかという点、状況はそれほど甘くはない。確かに建物自体は放っておいても4年やそこらはもつだろうが、現在も進行中の建物の老朽化への対策をどうするかという問題に関連して大学当局から建て替えの提案が出てきている。この提案に乗れば吉田寮という名前の施設は残るだろうが、現在の吉田寮とは全く異なるものが出来上がってしまうことは想像に難くない。吉田寮自治会は、吉田寮を大規模に補修するか、もしくはできるだけ自分たちの望むものに近い形での建て替えかの道を模索している。

次に吉田寮の自治についても少し述べる。現在の吉田寮の雰囲気は自治会が存在することと切っても切り離せない関係だ。自分たちの住む場所を、自分たちで管理運営するという当たり前前のことを実践しているからこそ、吉田寮が自由な空間を確保することができ、さらに福利厚生施設としての質を維持することができているのだ。現在のような吉田寮を残していこうと思うなら、自治会を存続させなければならない。まだ寮生になってもいないうちから自治の話聞いても実感を持ちにくいだろうが、自治をするというのはけっこうな時間と労力がかかる。楽しい吉田寮もただただ楽しいだけなのではなく、しんどい仕事も存在しているのだ。吉田寮を愛する人がたくさん入ってきてくれると、私はうれしい。しかし、吉田寮に寄生するだけの人、他人にケツを拭いてもらうのが当たり前のように振る舞う人には入ってきてほしくない。寮生は吉田寮にとってお客さんではないし、吉田寮は安アパートでもない。常に全力で自治会に尽くせとは決して言わないが、吉田寮に入るからにはほんの少しでいいから仕事をして、なおかつ自分のために他人の仕事を徒に増やすことがないようにしてほしい。

吉田寮に入るかどうか迷ったら、実際に大部屋に泊ってみればいい。寮はやめたほうがいいと言ってくる人がいるかもしれないが、そんな人のうちほとんどは実際に寮に住んだことがない人である場合が多い。寮は危ない？むしろ吉田寮は外より安全だ！寮だと勉強できない？そんなの自分次第だ！入寮案内を読んだ時点で吉田寮に興味を持ったなら、自分で直接確かめてみないと絶対に損だ。読者諸君よ、他人に踊らされることなかれ。自らの意志で踊れ。道徳や文化を克服し、己の価値観を再構築せよ。もしご縁があれば、吉田寮の受付のコタツでお会いしましょう。

# オフライン座談会「ウォンナノコの吉田寮生活」

参加者：NATO/柔道散弾/南寮太郎/びがろ

柔道散弾>なんについて話すんだっけ？

NATO>じゃ、ウォンナノコの(笑)吉田寮生活で。

柔>じゃ、それで。

N>題名決まったことだし、とりあえず、吉田寮に女子が住んだらどうなるかについて話したらいいんじゃない？

柔>どうなるかってどうなんだろうなあー。私あんまり不便感じたことないけど。トイレとか共同だし気にするひとはするだろうね。

N>納豆がうまそう。(柔道散弾は今納豆を食している。ちなみに私(NATO)は茨城県人なので納豆は神の作りし食べ物だと信じている。そして私は吞んでいる。)

トイレ共同は未だに鉢合わせするとどんなに仲いい男子でもあ。さーせんってなるわww まあ気にならんけど。

いや、初めて寮見たときはさ、なんかもう(笑)カオスだったねww

柔>私は初めて寮に来たときに一目惚れだったね。その後ずっと周りに吉田寮との運命的出会いについて語ってたしw

N>まじか(笑)まあでも慣れればね、住めば都っていうからね。今はめっちゃ住みやすい。暖房設備は結構ととのってるしさ、夏は涼しいしさ、それに何より人が

面白い！！みんな個性的。性別を超えて、仲間みたいな関係になれるからね。

柔>実際、寮生活の楽しいところとか、しんどいところとかに性別差ってあまりない感じがするなあ。

実際、会話の中で「女のくせに」とかいう発言をしてくる人はあんまり居ないし、言われたとしても「なんだそれ!？」って噛み付きやすい空気はあるんじゃないかなあ。

ここ入ってから、そういうラベルを通して人を見ることに前より違和感が強くなった、と思う。

N>うんうん。私なんかメイクとか女の子らしい格好とかしてパンチラ(笑)とかしちゃうと女らしいとこみせんな！って言われた時あるしねww あれだね、親とか兄弟の女らしいとこを見たくない的精神があるんじゃない？私結構男性恐怖症の気があったんだけどさ、あ、男も人間なんだって思うようになったのは寮のおかげだね。まあ突っ込んだ話寮内で恋も発生するけどね。

柔>恋はいつでもハリケーン！だからね！！(笑)

(南寮太郎がログインしました)

南寮太郎>...ところで、寮内で、普通寮に住んでたら僕(南寮太郎)とかでも「えー吉田寮住んでるの」とか言われたりするけど、特にいわゆる女子の場合は「あんなとこ住んで大丈夫なの」って過剰反応されたりするよね。

N、柔>あー、それはあるね。

柔>私、こたつ(受付の)で夏前かな？に寝てたら、多分寮生じゃない人で外から吉田寮に遊びに来た人が「こんなとこで寝てて、襲われても文句言えねーよな」とか言ってるのが聞こえたことあって、そのとき「はあ!？」ってすっごく思った。なんかうまく言えないけど。それって吉田寮も女性もバカにしてない？すごく。あと、夜中でも早朝でも、こんだけ人が住んでたら、結構だれかしらの目があるから、安全だなあと感じることの方が多いいけどなあ。

N>はあ！？なんだそいつ。って、今は思えるんだよ。私も入寮してからちょっとの間はさ、まあ率直に言っちゃえばセクハラとかレイプとか、そういうのって無いんだろうか？って不安になってた時期があったよ。でもさ、みんなのこと見てるとそんなこと思ってた自分にははは（笑）って笑っちゃうね。私よく寮内での公共の場とかで寝てたけどさ、男子たちのうちら女子に対する視線って、上手く言えないけど、いい意味での女の子扱いをしてきている気がする。柔道散弾に対してそういうこと言った奴が世間一般の感情だとして、それを男子達はある程度わかっている、そういう偏見から女子を守ろうとするような働きはあるんじゃないかな。って私は思うけど。まあそれは私が勝手に思ってるだけだから他の女子がどう思ってるか知らんけど。

柔>うは一、センシティブな話題になってきたね。セクハラとかに関しては、もちろん個人個人で考えとか、対応とかに違いがあって、ざくっと一般化するのもある、と思ったりはするんだけど、寮全体として、注意する人とかも多いし、そういうことにすごく否定的で「安心できる」感じがする。

N>結構ね、自分が住んでいるところで女として扱われることってすごくしんどいと思うんだよね。私はまあある程度外では世間一般で言われる「女の子らしい」行動を心がけている（寮生がこれ聞いたらプギャーwwって感じだけど）けど、お家でまでそんな気いはりたくないじゃない。だから女子として扱われないことが私にとってはものすごく信頼に繋がるし安心できる。

柔>ああ、それは言えてるかも。寮を「家」って感じるかには異論もあるかもしれないけど、すくなくとも住んでるし、帰ってくる場所だって私は思うし。

あとは、女性を女性として扱うかって話と微妙に違うけど、そもそも生物学的に女だから女として云々、って短絡的に考えることに「ん？」っていう感じはあるのかな。

太郎>確かに、寮のなかは比較的ジェンダー的な固定観念を押し付けてくるのが少なくなくて楽だっていうことは僕もすごく感じるな一。僕も性別欄には「男」と書いている種類の人間だけど、「男らしさ」を押し付けられるのとかはほんとうに息苦しいし。ただ、そのうえで寮内でも性別による決めつけやセクハラに対して言いにくい状況っていつでも、気付きにくいかたちで生まれてしまうとも思う。特にみんなが盛り上がっている状況とかのなかでは。だから吉田寮最高！みたいな言い方には、わかる部分もあるけど、ちょっと気をつけていたいな、という思いもあったり。

柔>そう南大門。みんながみんな盛り上がってるときって言うのは、そういうの言いにくいもん。

N>そだね一。なんかさあ、みんなで飲み会とかしてると、盛り上がっちゃってさ、男子はやっぱり男子だし、下ネタとか多くなったり酔って絡んで来たりするんだよ。でもそれいつも酔っぱらってるからって言うのは理解出来るし、そこで「やめてよ！！」って突き飛ばすとその場の雰囲気悪くなる気がして、「おーいww はは^^;」みたいな感じだけどさ、まあ私も酔うと人に絡むくせはあるけどさ、男の人の場合やっぱり力が違うから、どんなに気心知れた奴でも怖いって思ってしまうことはあるかも。

柔>下ネタかあ。そういうノリはあるよね。実際、受付とかみんなのい場所によくたまる人たちって言うのは、やっぱり数として男性の方が多かったりして、下ネタでも盛り上がったりしてるときももちろんあるしね。特に、お酒の入ってるときは顕著な気がするけど。個人的には行き過ぎた下ネタには口で注意したりすることに特に抵抗とかない人間なので、「そういうのって配慮が必要だろ」とか言ったり、そもそも女性がいるからとかではなくて、公共の場でそういうことを口にするのがどんなことかっていうのに全く意識のない人に「そういう視点があるんだぜ」って言うことは言っていきたいとは思っているけどな。

N>柔はそういうのちゃんと出来るからすごく羨ましい。私その発言なんかやだなあって思っても言えないんだよねえ。女子として扱われないことは嬉しいことだけど、なんかた

まにすごく女子として傷つく発言をされたりして、柔に泣いて相談したこととかあったしね。なんだろ、男女関係なく仲良くするのはいいけど、男子達の中のノリと女子の中のノリっていうのは違いがあるっていうのは、なんか理解してほしいなあ。人間的にさ。男子って結構簡単に本人に対して傷つくようなこと言う人多いじゃない？

柔>うーん、まあまあそれは NATO の普段関わるコミュニティのなかで、男子が多数派、っていうか NATO ひとり女子対他全員男子な状況であるから、ってのもあるんじゃないかなあ。そのなかでも疑問、というかその「悪ノリ」に対して苦言を呈して、その「男子」のなかでも意見の対立があったりするのを知ってるからさ。

太郎>やっぱり男性的なノリというところは、すごく強くなっていると思う。もともと、吉田寮は男性多数の社会だけど、「下ネタ」の話とか聞くと、けっこうげんなりしてしまう。ただ、「配慮」や「公共性」といっても、「女性の前での下ネタはみっともないからダメ」ていうことだったら、ちょっとひっかかるところもあるなー。「女性は性から遠ざけられるべき」というのも、まさしくジェンダー的な縛りのひとつだし。そうじゃなくて、同質的なマジョリティの内輪感や、そういうノリが場所にあわない人を遠ざけてしまうのがいやだなと思う。だから、ジェンダーの押しつけが少ないとはいっても、吉田寮はすごく「男臭く」なっていると思うよ。だから、最近の雰囲気とかを考えると吉田寮が楽な場所だっていうふうにはやっぱり言いたくない気持ちがあるなー。そりゃもちろん寮外の場所と比べると楽だけど。

N>私は一回生だから昔の寮についてはよくわからないんだけど、何年も寮に住んでる寮生の話を聞くと、性についての話って言うのは、男性としても女性としても話をしづらくなってるって聞くなあ。でも、その環境のなかに入り浸りすぎると、その環境がおかしいってことに気付かなくなってしまうんだよね。みんなでわいわいしてるときはノリで話についてくけど、後でふと考えたり、他の誰かに指摘されたりして初めてこれって公共の場でやってることとおかしいことなんじゃないかって気付くからね。

柔>確かにそれはあると思う。環境って結構思っている以上に自分を規定しているなあって。

柔>この話の流れが「男性」「女性」って分け方にある程度なってしまうのもしょうがなくはあるけど、寮内外でいわゆる、はっきりとジェンダーを規定したくない人っていうのもいて、そういう人と面と向かってジェンダーの話をしたわけでもないから、ここで喋るのもなあ（当事者じゃない気がして）、って思うし。

ただ、女性男性ってわけることより個人として向き合う方を大事にしようっていう思いはあるんだよね。

んでもってそういう考えがはっきり生まれたのはここ（吉田寮）にきてから。実際にそういう話をマジな顔して話してくれる人が多いかな、って感じはする。

太郎>そうそう、「男性」「女性」って言い方になってるのは僕も気になってたんだけど、「性は個人個人別々」っていう言い方をしてしまうと、「男性」「女性」とくくられる（そのくくり自体は無理矢理のもの）ひとたち同士で起こる問題のことが逆に見えなくなってしまうのも事実で。だから実際に「別々」であることは確かだけど、そのことを頭に置きながら、男性/女性の枠で考えるのはありだとおもうよ。もちろん、別のことを問題化したいときにはちゃんと「男性」「女性」の枠を疑うことは欠かせないと思うけど。

柔>なーるほどどうしば。じゃあ、ここでコレを読んでもる人も、ここでは男性/女性のひとたちで起こる問題について考えてみた、ってことを理解してほしいな。

他にも問題はあるとしてことを忘れてるわけじゃないんだよ、って。

（びがるがログインしました）

びがる>（ログを一読して）今北産業。だれかまとめてくれるとうれしい。おれはこれ見て、「ジェンダーについて考えるって、結局個人の多様性に収斂されるのか？」でもそれ

ですべて解決するってわけでもないよなー」ってモヤモヤしてたことを思い出した。「じゃ、どういう話し出し方をとればいいんだろ？」みたいな。

N>ほう。まあね、要するにね、こういう問題について、向き合わずに日々を過ごすのも、きちんと考えて、いろんな人と向き合って話すのも、これから寮の男性／女性についての問題がどうなるかっていうのも、この文章を読んでもあなた次第ってことじゃない??って勝手にまとめてみたよ。どうだい、柔よ。

柔>...それも個人に収斂しているということになるのでは...?

...ただ、こんだけ長々書いたけど、まだまだ結論もまとめもないってこと。

ひとつ言いたいのは、コレを読んでもキミも是非吉田寮に来て、(住むってだけじゃなくて、遊びに来たりして)こういうことについて話して欲しい!ってこと。

びがる>ていうかまず、今の寮内で話されてなさすぎだよ。ジェンダーについての認識とか問題意識とか、みんなある程度ずつは持っているのかもしれないんだけど、それすら共有されてないと思う。いざこざが起きてから話し合うって言うんじゃないで、誰かが居づらい思いをしないように(その人がその思いを表出するしないに関わらずね)いつでも話しておくべきことのはずなのにね。

## 俺たちの冒険は

## まだまだ終わらない...!!!!!!!!!!!!!!(第一部 完)

## あるお年寄りの有り難い話

唐仁原俊博

僕には語るべき事が多すぎて、時に戸惑ってしまうのだが、まずは、一番どうでもいい話から始めよう。

最近、一人称として「僕」を用いる事がある。中学入学以降だと思うのだが、「公僕」という言葉を知り、「しもべ」という意味合いのあるこの言葉に抵抗を憶えたのがきっかけで、「私」に鞍替えした。今になって思うと、一人称において、「私」というのは主張の少ない言葉である。性差を感じさせないというもあるし。ところが、最近、文章を書くときなんか、僕には「僕」の方が合っている瞬間があることに気付いた。この現象、あるいは変化が何に因るものか未だに分からないが、この文章もそれでいく。

次の話題。タイトルにあるお年寄りとは、どっかの爺婆の事ではなく、僕の事である。寮では、吉田寮に限らないようだが、入寮してある程度経つと「年寄り」と呼ばれ始める。だいたい五年目以降かな。僕はこの春、入寮八年目を迎えるのでとくに年寄りである。年寄りは年寄りらしく暮らしていこう、その方が楽だろうし、と思っている。まあ、その過ごし方に飽きるまでは。どんなのが年寄りらしいのだ、と思うかもしれないが、まあそれは寮に来たら何となく分かると思うし、特に説明し

ない。ちなみに、「老兵は死なず、只去るのみ」と言う言葉があるが、そんなことは無く、去ることは即ち死ぬことである。

次の話題。最近小学生と触れあう機会が多いのだが、「イエス！ロリータ ノー！タッチ」。

次の話題。僕は洛で芝居をしている。あたりは学生劇団だらけだが、僕はそのキャリアをほとんどそれ以外で積み上げてきた。もし貴方が芝居をする人であるなら、いきなりどこかの劇団に所属するのではなく、しばらくいろいろなところに入入りしてみるのでもいいかと思う。あと、もてたきや芝居しろ、とも言い添えておく。

次の話題。最近、寮内において「さん」付けで呼ばれることが多くなった。僕が入寮した時は、僕自身が今より随分活動的だったし、馴れるのも早くて、あつという間に「さん」を付けずに呼べる人だらけになった。現状の「さん」付けが単に付き合いの距離感の問題であるならまだ分かるのだが、そうでなく、年上だから「さん」を付けとこう、という考えであるなら、ちょっとやだ。僕は、年上でなくとも、その人格と実績に於いて尊敬されるべき人間だから、その点で云えば、全ての間が僕に「さん」を付けるべきだと思ふのだが、僕がそれを強要しないのは、「さん」と呼ばれないときの

気軽さと距離感をより重視しているからである。であるから、僕の核心に触れて心から敬服しない限り、貴方は僕を「とうじんさん」と呼ぶべきではない。

次の話題。去年の九月に「おめでとう！吉田寮ほぼ100周年祭」、通称「ほぼ100祭」が行われた。その中で、今をときめく「ヨーロッパ企画」がやって来てコントをしたというのは、訴求力のある出来事だった。あの日、吉田寮食堂に集まった面々は、何とも異次元めいて素晴らしかった。集まった多くの人とって、食堂での日々は十年昔のことであるが、僕も食堂での十年目を斯くの如く迎えたいものである。

次の話題。また芝居の話。僕は四月二十四日と二十五日に食堂で僕が主宰する独り劇団「啞血劇場」の公演を行う。独り劇団故、当然ひとり芝居である。新入生は寮生に限らず無料である。五百円が払えない人は、金を取らずに見れるようにしている。見に来い。

次の話題。僕には二階の窓から入ってくる幼馴染みがいなくて良かったと思っている。そうでなければ、僕は既に彼女と居を構えていただろうし、ここにいなかったら。中学最後の文化祭、後夜祭のフオークダンスで、小学二年以来初めて手を繋ぎ、それ以降異様に意識してしまっ過ぎてくしゃくしだす、というシ

チュエーションが僕に訪れなかったことに、僕は後悔は無い。

次の話題。僕は丸太を組むのが得意である。鉄パイプを組むのも同様。もし、貴方が、更地に異空間を現出させたいのなら、僕に声を掛けて間違いは無い。

次の話題。人間は見た目が九割であるが、残りの一割は財力である。しかし、大多数の人はそれを持っていない。だから、人間としての振れ幅、懐の深さでの勝負になる。貴方が勝負に出たいなら、この寮で、それを身につけ、磨きをかけたなら、光が差すかもしれないね。

次の話題。逢坂大河は虚構。

最後の話題。実は書いてる最中、無意識のうちに「私」になっていたが、体裁が悪いので「僕」に統一し直した。何に於いても無理しないのが長生きのコツだと思うが、まあ、この文章は最初、「僕」で書きたいと思ったので、そうすることにしよう。最後までどうでもいい話題だな、こりや。

了